

海運 <不定期専用船>

2020年12月4日

船上で抗菌メッキ技術効果検証開始 旭海運、新型コロナ念頭に神鋼の技術活用



“旭丸”で導入箇所を確認

旭海運（根元聡社長）は、神戸製鋼が開発した特殊ニッケル抗菌メッキ技術「ケニファイン」を同社が保有するパナマックス・バルカー“旭丸”に10月28日に導入し、効果を検証する実証実験を始めた。新型コロナウイルス感染拡大が続く現状を受け、船上で同ウイルスを含めた細菌・ウイルスの感染リスクを抑制し船員の労働環境を改善することが狙い。船員が頻繁に触れる箇所にメッキや抗菌シートを貼り、“旭丸”が日本へ寄港した際に抗菌効果の測定を検査機関に依頼する。

高性能抗菌メッキ技術「ケニファイン」は神戸製鋼が開発し、高秋化学（新潟県燕市）がライセンスを取得している。

まずは「ケニファイン」を使ったシートやメッキ板を、船員が頻繁に触れる電子海図周辺の手すり、ブリッジと船内各所をつなぐ通信機の受話器、船内の扉などに設置した。次回寄港時には抗菌メッキ加工を施したドアノブの導入、濃縮抗菌剤を混合したペンキのジムルーム床への塗装も行う。さらに厨房や空調フィルターなどにも導入が可能か検討する。

「ケニファイン」の導入に当たり、旭海運の竹之下登副社長らと東海大学海洋学部の金子仁客員教授、神戸製鋼、高秋化学が“旭丸”の船上で検証を行った。

“旭丸”は兵庫県加古川市にある神戸製鋼の製鉄所におよそ40日間隔で寄港。その都度細菌や

ウイルスの付着状況、メッキの抗菌効果の測定が可能になる。導入効果が認められれば共有船や用船への拡大を検討する考え。

竹之下副社長は「新型コロナの感染拡大下で船員が大変な思いをする中、海運会社として少しでも彼らの不安を軽減したい。船上での効果が確かめられれば、今後海事クラスター全体でも導入できるような技術になればよい」と話す。旭海運はE S G（環境・社会・ガバナンス）への取り組みを強化しており、今回の実証実験もその一環となる。

海事プレスに掲載の記事・写真等の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

© Kaiji Press Co., Ltd. All rights reserved.

No reproduction or republication without written permission.